

英文抄録(abstract)作成の心得:英文校閲者の視点から

伊 藤 頼 位

歯学誌掲載論文の英文 abstract 校閲に従事して6年になります。多くの人に論文を読んでもらえるかどうかは、abstract の良し悪しで決まります。研究者は abstract の記述から論文の価値を判断し、本文を読むか否かを決めます。どんなに素晴らしい研究成果が本文に書かれていても、abstract が稚拙であればその研究が広く世に知られることはないのです。したがって、abstract は本文以上に気を遣って執筆すべきです。ところが、英文校閲の段階まで進んだ原稿であっても、十分に吟味されたとは思えない abstract が少なくありません。英語表現の誤りのみならず、論文の内容を的確に表現しているとは言い難いものも散見されます。ここでは、特に若い研究者の方々へ向けて、より良い abstract を執筆するために、今一度確認していただきたいポイントを述べたいと思います。

適切な abstract を書くためにはどうすれば良いでしょうか。真っ先にすべきことは、良質な論文をたくさん読むことです。こんな当たり前のことを書いたら、読者のみなさまのお怒りを買うことは承知しています。研究者である以上、出来る限り多くの論文を読むのは当たり前です。しかし、実際には「この著者は論文を読んだことがあるのだろうか」と疑いたくなる abstract に出くわすこともあります。和文、英文を問わず、一編でも多くの論文を読み、そこで使われている表現に注意を払うことが、良き書き手となる第一歩です。更にもう一つ付け加えるとすれば、「論文作法」に関する本を一冊は読むべきです。幸い、古典的名著が豊富にありますので、定評のある書籍を選んでください。

以下では、校閲時によく目にする具体的な欠陥を三つ紹介します。今後の執筆の参考にしていただければ幸いです。まず、構成に関する欠陥として、introduction に相当する情報の不足が挙げられます。Introduction は、一言で言えば、「この研究は何の役に立つのか」を読者に伝える部分です。(A)何が分かっている、(B)何が分かっているのか、(C)自分はどのようなアプローチでその未解明部分を明らかにしようとしたのか、の三点を説明する必要があります。ところが、(A)や(B)が記述されていないケースがしばしば見られます。これらの情報は、研究成果の研究史上の位置付けを理解するために極めて重要です。これらが抜けてしまう原因は二つ考えられます。一つは、それらが著者にとって自明であるために記述しなくてもよいと考えた場合。もう一つは、自分の研究が何を解明しようとしており、その解明が如何に歯学に貢献するのか著者自身が十分に認識できていない場合です。いずれにせよ、(A)や(B)を記述しないことは自らの研究の価値を読者に伝えるチャンスをふいにしていることになるので、注意しなければなりません。

次に、英語表現で注意すべき点を述べましょう。最も多く見られる欠陥は、単数と複

数の区別に関するものです。日本語では意識されない文法事項であるため、特に注意を向ける必要があります。次の文の誤りを見つけてください。

The pH value of the three samples was measured with hand-held pH meter.

三種類のサンプルそれぞれの pH を個々に測定し、三つの測定値を得たと考えられるので、pH-value は複数形であるべきで、それに伴って動詞は were が正しい形です。また、meter は可算名詞なので、単数形の a hand-held pH meter か、複数形の hand-held pH meters のどちらかとなります。一回の測定に複数の機器を同時に使用することはないでしょうから、単数形が適切と考えられます。正しい表現は、

The pH values of the three samples were measured with a hand-held pH meter.

となります。こうした点は些細なことと思われるかもしれませんが、正確な記述を旨とする科学論文においては疎かにすることはできません。

最後に指摘したいのは、適切な用語の使用です。私は歯学の研究者ではありませんから、abstract 中で用いられている術語の定義を各種のリファレンスを用いて確認しています。もっとも頻繁に利用するのは、ライフサイエンス辞書 (<https://lsd-project.jp/>)、CiNii (<https://ci.nii.ac.jp/>)、医中 Web (<https://search.jamas.or.jp/>) の三つです。校閲には英文の abstract とその日本語対訳を提出していただいていますので、日本語対訳中の術語をこれらのリファレンスで検索し、ヒットした論文の英文を読んで適切な訳語を確認する、または逆に校閲中の abstract の英語術語を検索して日本語の定訳を確認し、日本語対訳に合致していることを確認するという作業をします。時には、校閲中の英文内の表現を検索しても、まったくヒットしないことがあります。この場合、その表現が一般的な術語ではないということが示唆されます。読者に無用な混乱を生じさせないように、上記のリファレンスを活用して一般的な訳語を使用するよう心がけて欲しいものです。

ここで取り上げた三項目を含めた abstract の欠陥は、手本となる論文をたくさん読み、適切なリファレンスを使用することで回避できるようになるはずですが、その点を肝に銘じて論文作成にあたっていただきたいと思います。

(奥羽大学歯学会編集委員)